

**An Attempt to Formulate a Vocabulary List for the
Construction of a Korean Combined Lexicon Network (1)
——Focusing on the Presentation of the Relationship
between Fortition and Tensification in Sino-Japanese Nouns**

YOON Jeong-in

Abstract

In this paper, I discuss efforts aimed at resolving pronunciation problems that hinder the improvement of practical skills for Korean learners whose native language is Japanese, as well as forming a foundation for creating a 10,000 vocabulary lists, which is the target number of words to learn. Since the system of Korean pronunciation is complicated, I propose a collaborative presentation based on 'a combined lexicon network' using marked vocabulary as a solution to this problem.

The construction of a combined lexicon network requires a prior vocabulary survey. Although this approach is an attempt to pursue both pronunciation and vocabulary, it is currently the most necessary effort.

韓国語の複合的語彙ネットワーク構築の ための語彙リスト策定の試み (1) ——漢語と濃音化・漢語と激音化の コラボレーション提示を中心に——

尹 亭 仁

キーワード：韓国語、複合的語彙ネットワーク、コラボレーション提示、
語彙リスト、無標属性語彙、有標属性語彙

1. はじめに

外国語の学習において必要な3つの要素は文法、語彙、発音である。この3つの要素の理解、すなわち学習に必要な時間は母語と目標言語とのこの3つの違いの程度による。

日本語を母語とする韓国語学習者にとってSOVの語順、共有する多くの漢語、機能が類似している助詞の用法などは韓国語学習の利点、すなわち正の転移 positive transferと言われるが、発音の複雑な仕組みは予想以上に学習の妨げになっている。言い換えれば、発音が負の転移 negative transfer になっており、学習に必要な時間が長いと言える。(1)のような表記と発音との乖離、(2)のような多くの発音規則や変則の説明が、学習の入口で学習者の学習意欲をそいでいることは否めない。

(1) 表記と発音との乖離

a. 좋아요 /조아요/ いいです

- b. 맛있는 /마신는/ おいしい（連体形）
 c. 같이 /가치/ 一緒に

（2）多くの発音規則や変則

- a. 먹고 /먹꼬/ 【濃音化】 食べて
 b. 좋고 /조코/ 【激音化】 良くて
 c. 없는 /엄는/ 【鼻音化】 ない（連体形）
 d. 해돋이 /해도지/ 【口蓋音化】 日の出
 e. 맵다 매워요 【ㄹ変則】 辛いです
 f. 모르다 몰라요 【ㄹ変則】 知りません・分かりません

昨今、日本の大学における韓国語教育は、韓国ドラマや K-POP の人気だけでなく韓国文学に対する関心も高まり、学習者のレベルも向上してきている。高い運用能力を求め、韓国に留学する人も年々増えている中で、大学でも韓国語の履修者のニーズに合わせ様々な工夫をしている。

筆者は 20 年以上、テキストの選定から課題の提示まで、文法教育と語彙教育に授業の重きを置いてきた。しかし、近年毎年実施している簡易アンケートの結果から、韓国語のレベルの向上に大きなハードルとして立ちだかっているのは「発音」であることが浮き彫りになった（尹亭仁・稲毛恵：2026a）。多くの学習者が発音のところで立ち往生しているのである¹⁾。

本稿の目的は、日本語を母語とする韓国語学習者の運用能力の向上に立ちだかっている（1）と（2）の問題の解決および目標学習語数である 1 万語の語彙リストの作成の基盤形成のための取り組みを提示することである。韓国語の複雑な発音の仕組みの説明に「複合的語彙ネットワーク」に基づいたコラボレーション提示を提案する。

2. 韓国語の学習に関する簡易アンケートと結果

2.1 実施日と人数

実施日：2025 年 7 月 7 日～10 日

総人数：188 人

2.2 実施科目とレベル

科目名	8 クラス（尹 4 クラス + 稲毛 4 クラス）	
初級レベル	初級韓国語 3：60 人	入門韓国語 1：39 人 ²⁾
中級レベル	中級韓国語 1：28 人	応用韓国語 1：28 人
上級レベル	上級韓国語 1：10 人	特講韓国語 1：23 人

2.3 設問の内容

韓国語の学習において、皆さんが難しいと思っているところを 3 つ、具体的に（例えば、文法なら動詞の活用、発音なら鼻音化など）挙げてください。

2.4 アンケートの結果

発音が難しいと書いた学生の人数と割合は (3) のようになる。初級レベルなら納得できる結果であるが、上級になっても 7 割以上の学生が発音に苦戦していることは、韓国語教育に携わっている者にとっては大きな課題である。これには何らかの対策を講じなければならないと考えている。

(3) 初級レベル：99 人（94 人：94.95%）

中級レベル：56 人（38 人：67.86%）

上級レベル：33 人（25 人：75.76%）

3. 浮上した問題とフィードバック

尹・稲毛（2026a）は簡易アンケートではあるが、筆者が重く受け止めているのは、2020 年度から実施しているアンケートの結果と変わっていないことである。発音の問題の指摘が目立っており、3～4 年間韓国語を履修している学生たちからも「発音の変化は難しい」との声が届いている。

3.1 フィードバックをどうするか。

筆者は文法中心の授業を振り返るとともに 2026 年度の授業からこのフィードバックをどうするかを大きな課題として受け止めている。そして、(4) の 3 点について検討を重ねている。

- (4) a. 語彙と一緒に提示する従来のやり方は効果がないのか。
- b. 鼻音化、激音化、ㄹ変則と、いちいちタグ付けして取り上げない方がいいのか。
- c. 発音に特化したドリルブック、または補助教材が必要なのか。

この課題の答えを得るためにも韓国語の複雑な発音規則を見てみよう。

3.2 韓国語教育に立ちはだかる複雑な発音規則

日本の大学における韓国語教育では初級レベルから様々な発音規則が登場する。(5a) ～ (5d) のようなものが挙げられる。

(5) a. ～化

濃音化、激音化、鼻音化、口蓋音化、連音化、流音化

b. ～変則

ㄷ変則、ㄹ変則、ㄴ変則、ㅇ変則、ㄹ変則、ㅇ変則、하變則

c. ～語幹

ㄷ語幹、ㅇ語幹

d. その他

頭音法則、ㄷ音添加、ㄴ音添加、ㅇ脱落³⁾、母音縮約

(5a) ～ (5d) の中で、最も頻出するのは「濃音化」である。活用形まで含めると「鼻音化」が多い。デス・マス形に相当する「ㄹ니다／습니다形」では (6a) のように母音字母終わり、すなわち終声 (バッチム) がない場合は鼻音化が起こる。さらに (6b) のように子音字母終わり、すなわち終声 (バッチム) がある場合は濃音化と鼻音化が起こる。例外なく [습니다] になるからである。バッチムのある述語の連体形にも鼻音化が起こる。

(6) 述語の活用形と発音の変化

a. 이다	입니다／임니다／	【鼻音化】	です
가다	갑니다／감니다／	【鼻音化】	行きます
하다	합니다／함니다／	【鼻音化】	します
b. 먹다	먹습니다／먹습니다／	【濃音化・鼻音化】	食べます
받다	받습니다／받습니다／	【濃音化・鼻音化】	もらいます
맴다	맴습니다／맴습니다／	【濃音化・鼻音化】	辛いです

韓国語には説明できない濃音化もしばしば起こる。(7ab) のような例

が挙げられる。

(7) 説明ができていない濃音化

- | | | |
|----|------------|----------|
| a. | 발권(發券)／발권／ | 發券 |
| | 갈등(葛藤)／갈똥／ | 葛藤 |
| | 달성(達成)／달쌩／ | 達成 |
| | 밀집(密集)／밀집／ | 密集 |
| | 발전(發展)／발전／ | 發展 |
| | 열중(熱中)／열쑹／ | 熱中 |
| b. | 남다 | ／남따／ 残る |
| | 남고 | ／남꼬／ 残って |
| | 신다 | ／신따／ 履く |
| | 신고 | ／신꼬／ 履いて |

(7a) の場合、漢語において「ㄷ」の後ろにくる「平音」は濃音化を起こす、と言えそうだが、「발전(發見)」「출범(出帆)」のように例外も多い。(7b) の固有語においても、「잔다[잔다]：寝ている」「온다[온다]：来る」は同じ条件でも濃音化が起きていないため、統一的説明はできない。

(5a) ～ (5d) は編まれる韓国語テキストの内容にもよるが、多くが初級から説明に用いられる。これを初級の入口でそのつど取り上げると、慣れない文字と発音に苦戦しながら単語の意味の把握に追われている学習者には重い負担としてのしかかるのである。

4. コラボレーション提示のための複合的語彙ネットワークの構築

前節で取り上げたように、韓国語の発音は表記と異なる場合が多い。この点が第2節の簡易アンケートの結果に如実に表われたと思われる。

稲毛(2026)は、韓国での外国人のための韓国語の学習語彙に関するサーベイを通じて、1万語という目標学習語数を提示している。筆者はこの1万語が日本の大学における韓国語教育で必要な最小限の語数であると考えている。しかし、主に文法を中心に編まれた教材を通して導入できるのは異なり語数で4千語が限界である。

この状況を少しでも改善するため、尹・稲毛(2026b)では付録に「漢語動詞 600 語」を載せているが、目標学習語数としての1万語に近づくにはほど遠い。本文の中の単語リストには発音の特徴を提示してあるが、索引や付録に発音情報まで提示することはできなかった。

さらに、筆者は1万語の学習を現実化するため、「1日10語、毎日書いて覚える韓国語3,600」(以下、「1日10語」と略する)【中級編】【上級編】を授業の内容とレベルに合わせて補助教材として活用している。この補助教材は、筆者が長年力を入れて取り組んでいる漢語・漢語動詞や、固有語動詞、固有語形容詞、漢語形容詞、外来語、助数詞などの品詞分類した語彙だけでなく、四字熟語、オノマトペ、接尾辞「-적(的)」と結合する多くの複合語、日常でよく用いる語彙、例えば野菜や文房具の名前も提示している。書き込めるレイアウトで、軽い日課として取り組めるようになっている。自発的学習を誘導しながら飽きることなく取り組んでもらえるが、この試みでも発音の問題は解決できない。「1日10語」は語彙の品詞と意味を中心に構成されており、全体的に統一性に欠けているため、改

善の余地は多々ある。しかし、これに発音情報を加えようとなると、再構成の必要があり、筆者が新たな取り組みとして考えているのは「複合的語彙ネットワーク」の構築による語彙リストの作成である。これが構築されると、「1日10語」シリーズにも反映でき、教材の付録として提示することもできる。発音と語彙の二兎を追うような試みだが、今最も必要な取り組みである。

4.1 複合的語彙ネットワークと語彙の属性

複合的語彙ネットワークを構築するためには、韓国語の語彙が持つ属性の分類が必要である。語彙が持つ属性を「発音」を中心に捉えると、「無標属性語彙」と「有標属性語彙」に分けられる。

4.1.1 無標属性語彙

「無標属性語彙」とは、表記と発音に齟齬が生じない語彙のことである。(8)のような語彙群である。いずれも漢語と固有語に分けて提示する必要があると考えている。

(8) 無標属性語彙

- | | |
|--------|----------------------------|
| a. 名詞 | 할머니・친구・사과・냄새・장미・바다・뒤치다꺼리 |
| b. 動詞 | 가다・살다・타다・만나다・만들다・던지다・사용하다 |
| c. 形容詞 | 예쁘다・바쁘다・시다・짜다・올바르다・남다르다 |
| d. 複合語 | 서울말・개나리・모기향・꿈나라・날씨・조랑말・설명문 |

(8)を見れば分かるように、終声終わりの語彙でも「無標属性語彙」の場合もある。無標属性語彙は終声だけの問題ではなく、続く音節の初声がどのような音韻なのかが問題である。終声と続く音節の初声によって発音

が変わることを (9) に示す。同じ「국(國)」で始まる単語であっても、(9a) のように発音に変化がないものから (9b) ～ (9e) のように多様な変化を見せている。

(9) 終声と続く音節の初声による発音の変化

- | | | | |
|----------------------|------|-------|-------|
| a. 국토(國土) | ／국토／ | 【－】 | 国土 |
| 국恥(國恥) | ／국치／ | 【－】 | 国恥・国辱 |
| b. 국어(國語) | ／구거／ | 【連音化】 | 国語 |
| c. 국내(國內) | ／궁내／ | 【鼻音化】 | 国内 |
| 국민(國民) | ／궁민／ | 【鼻音化】 | 国民 |
| 국립(國立) ⁴⁾ | ／궁립／ | 【鼻音化】 | 国立 |
| d. 국가(國家) | ／국까／ | 【濃音化】 | 国家 |
| 국법(國法) | ／국뻬／ | 【濃音化】 | 国法 |
| e. 국화(國花) | ／구과／ | 【激音化】 | 国花 |
| 국회(國會) | ／구괴／ | 【激音化】 | 国会 |

4.1.2 有標属性語彙

「有標属性語彙」とは、表記と発音に齟齬が生じる語彙のことである。「発音が変わるため注意が必要である」という意味で有標になっている。韓国語では助詞として品詞分類される「이다」を含め、活用形を持つ述語は、いずれも有標属性を帯びることになるが、本稿では基本形（辞書形）を対象とする。

(10) 有標属性語彙

- | | |
|-------|----------------------------|
| a. 名詞 | 식당・학교・국화・국내・국민・학년・먹살・김밥・발등 |
| b. 動詞 | 돕다・옴다・읽다・덮다・읽다・찾다・덧나다・도착하다 |

- c. 形容詞 갈다・맵다・낮설다・하얗다・갑작스럽다・솔직하다
- d. 複合語 머릿속・꽃집・꽃병・마음속・흙먼지・옷걸이・집안일

「複合的語彙ネットワーク」とは、(10)のような有標属性語彙を(5)のルールに従い、仕分けしたグループのことである。「고맙다：ありがたい」「귀엽다：かわいい」「덥다：暑い」「맵다：辛い」「부끄럽다：恥ずかしい」「춥다：寒い」は【濃音化×ㄹ変則】の語彙ネットワークに分類される。筆者は『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』(2009)の編者であるが、【濃音化×ㄹ変則】を集めたリストまでは作成していない。このリストを早く整備し、受け持っている中級と上級の授業で、授業の内容に合わせて提示したい。共通の属性を持っている語彙リストが提示されると学習者の理解も早まり、発音のところでの立ち往生状態は改善されると期待している。

4.2 コラボレーション提示

「コラボレーション提示」とは、有標属性語彙の中で、2つ以上の要素が含まれる語彙のコラボレーションのことである。(11)のような例が挙げられる。

(11) コラボレーション提示の例

- a. 【漢語×濃音化】
학과(學科)・학교(學校)・학생(學生)・학부(學部)・학설(學說)
- b. 【漢語×鼻音化】
격려(激勵)・국내(國內)・국력(國力)・국민(國民)・독려(督勵)
- c. 【漢語×激音化】
격화(激化)・국호(國號)・국화(國花)・국회(國會)

d. 【固有語×濃音化】

꽃밭・꽃집・꽃병・밀바닥

e. 【固有語×濃音化×ㄹ変則】

그립다・놀랍다・반갑다・버겁다・살갑다・험겁다

f. 【漢語語幹×濃音化×ㄹ変則】

정답다・학자답다・신비롭다・자연스럽다

従来、(11)の語彙は個別的かつ分散的に取り上げられてきた。本稿ではこれらの語彙を体系的かつ集中的に提示する取り組みを模索しているのである。そのためには、有標属性語彙のリスト作成とレベルの策定が必要である。(11d)のような【固有語×濃音化×複合語】のリストは中級の後半と上級で提示したい。固有語の体系的かつ集中的提示は中級からになる。

4.3 語彙ネットワークリストと提示レベルの策定

この語彙属性の分類のためには語彙調査が必要である。筆者は市販の韓国語教材から初級・中級・上級テキストの50冊を選定、(12ab)のような座標を設定し、無標属性語彙と有標属性語彙の分類作業に取り掛かる予定である。

(12) 語彙属性の分類のための座標

a. y 軸：4段階のレベル

①初級（+入門）②中級（+応用）③上級 ④超級

b. x 軸：12種類の要素

①濃音化 ②激音化 ③鼻音化 ④口蓋音化 ⑤ㄷ変則 ⑥ㄹ変則 ⑦ㄴ変則 ⑧ㅇ変則 ⑨ㄹ変則 ⑩ㄹ語幹 ⑪ㅇ語幹 ⑫固有語の使役

動詞と受身動詞（激音化・口蓋音化の語彙が含まれているため）

（12ab）のような設定による語彙ネットワークの構築には時間がかかる。筆者は、完成を目指しつつ、不完全な形でも頻出する濃音化と激音化を中心に中級クラスで提示に努めたい。

5. 漢語と濃音化によるコラボレーション

筆者は第2節での結果を受け、2026年度の授業では改善を心がけている。特に初級で頻出する濃音化と激音化について言及を控えている⁵⁾。現在、初級では漢語의 학교(學校)[학교]・학생(學生)[학생]・식당(食堂)[식당]・약속(約束)[약속]をさりげなく取り上げ、ついでに먹다[먹다]・받다[받다]を取り上げている。以下では、まず濃音化がどういうものかについて提示したい。

5.1 濃音化の様子

濃音化とは、平音のバッチム [ㄱ] [ㄷ] [ㅂ] の後ろに平音の初声 [ㄱ] [ㄷ] [ㅂ] [ㄴ] [ㄷ] がくる場合、それぞれ濃音の [ㄱ] [ㄷ] [ㅂ] [ㄴ] [ㄷ] に発音されることである。複雑さを浮き彫りにするため、漢語と固有語に分けてその例を取り上げる。

(13) 漢語と濃音化

a.	ㄱ + ㄱ	국가(國家)	/국가/	国家
		학교(學校)	/학교/	学校
	ㄱ + ㄷ	식당(食堂)	/식당/	食堂
		작동(作動)	/작동/	作動

ㄱ + ㅂ	국보(國寶)	/국뽀/	国宝
	악보(樂譜)	/악뽀/	楽譜
ㄱ + ㅅ	식사(食事)	/식싸/	食事
	학습(學習)	/학쌔/	学習
ㄱ + 스	복잡(複雑)	/복잡/	複雑
	학점(學點)	/학점/	(大学での) 単位
b. ㅂ + -	-		
c. ㅂ + ㄱ	급감(急減)	/급감/	急減
	잡기(雜技)	/잡끼/	雜技
ㅂ + ㅂ	잡다(雜多)	/잡따/	雜多
	잡담(雜談)	/잡땨/	雜談
ㅂ + ㅅ	압박(壓迫)	/압빠/	圧迫
	잡비(雜費)	/잡뽀/	雜費
ㅂ + ㅅ	급식(給食)	/급씩/	給食
	잡식(雜食)	/잡씩/	雜食
ㅂ + 스	압제(壓制)	/압쨌/	圧制
	잡지(雜誌)	/잡찌/	雜誌
d. ㅅ[ㅂ] + -	-		
e. 스[ㅂ] + -	-		

漢語の場合、バッチムとして実現されるのは [ㄱ] [ㅂ] だけであるため、漢語の濃音化の説明は固有語より容易である⁶⁾。

(14) 固有語と濃音化

a. ㄱ + ㄱ	먹고	/먹꼬/	食べて
	속고	/속꼬/	騙されて

	ㄱ + ㄷ	먹도록	/먹또록/	食べるように
	ㄱ + ㅅ	국밥	/국빔/	スープご飯
	ㄱ + ㅅ	국수	/국쑤/	麵類
	ㄱ + ㅅ	먹자	/먹짜/	食べよう
	ㅁ[ㄱ] + ㄱ	닦고	/닥꼬/	拭いて
	ㅁ[ㄱ] + ㄷ	닦다	/닥따/	拭く
	ㅁ[ㄱ] + ㅅ	닦자	/닥짜/	拭こう
b.	ㅂ + ㄱ	받고	/반꼬/	もらって
	ㅂ + ㄷ	받도록	/받또록/	もらうように
	ㅂ + ㅅ	-		
	ㅂ + ㅅ	민소	/민쏘/	信じるよ
	ㅂ + ㅅ	걸자	/걸짜/	歩こう
c.	ㅅ + ㄱ	굽고	/굽꼬/	焼いて
	ㅅ + ㄷ	굽도록	/굽또록/	焼くように
	ㅅ + ㅅ	밥벌레	/밥뻔레/	ごくつぶし
	ㅅ + ㅅ	밥술	/밥쑤/	炊飯器
	ㅅ + ㅅ	밥줄	/밥쑤/	生活の糧
d.	ㅅ[ㅂ] + ㄱ	잇고	/인꼬/	つないで
	ㅅ[ㅂ] + ㄷ	잇다	/인따/	つなぐ
	ㅅ[ㅂ] + ㅅ	빗발	/빈뻔/	雨脚
	ㅅ[ㅂ] + ㅅ	빗속	/빈쑤/	雨の中
	ㅅ[ㅂ] + ㅅ	잇자	/인짜/	つなごう
e.	ㅅ[ㅂ] + ㄱ	찾고	/찬꼬/	探して・求めて
	ㅅ[ㅂ] + ㄷ	찾다	/찬따/	探して・求めて
	ㅅ[ㅂ] + ㅅ	맞불	/만뻔/	向かい火
	ㅅ[ㅂ] + ㅅ	맞선	/만쑤/	見合い

- 스[ㄷ] + 스 찾자 / 찰짜 / 探そう・見つけよう
- f. 스[ㄷ] + ㄱ 꽃가루 / 곧가루 / 花粉
- 스[ㄷ] + ㄷ 꽃다발 / 곧따발 / 花束
- 몇 달 / 면달 / 何か月
- 스[ㄷ] + ㅅ 몇 봉지 / 면뽕지 / 何袋
- 스[ㄷ] + ㅅ 몇 살 / 면살 / 何歳
- 스[ㄷ] + 스 몇 줄 / 면줄 / 何行
- g. ㅌ[ㄷ] + ㄱ 발갈이 / 받까리 / 畑を耕すこと
- ㅌ[ㄷ] + ㄷ 같다 / 감따 / 同じだ
- ㅌ[ㄷ] + ㅅ 밑바닥 / 민빠닥 / 底
- ㅌ[ㄷ] + ㅅ 맡습니다 / 만쌔습니다 / 担当します
- ㅌ[ㄷ] + 스 밑줄 / 민줄 / 下線
- h. ㅍ[ㅍ] + ㄱ 높게 / 뽕께 / 高く
- ㅍ[ㅍ] + ㄷ 덮다 / 덩따 / かぶせる
- ㅍ[ㅍ] + ㅅ 덮밥 / 덩뽕 / どんぶり
- ㅍ[ㅍ] + 스 덮자 / 덩짜 / かぶせよう
- i. ㄱ[ㄱ] + ㄱ 깎고 / 각꼬 / (皮を) 剥いて
- ㄱ[ㄱ] + ㄷ 깎다 / 각따 / (皮を) 剥く
- ㄱ[ㄱ] + ㅅ -
- ㄱ[ㄱ] + 스 깎습니다 / 각쌔습니다 / (皮を) 剥きます
- ㄱ[ㄱ] + 스 깎자 / 각짜 / (皮を) 剥こう
- j. ㅅ[ㄷ] + ㄱ 갔고 / 감꼬 / 行って
- ㅅ[ㄷ] + ㄷ 갔다 / 감따 / 行った
- ㅅ[ㄷ] + ㅅ -
- ㅅ[ㄷ] + 스 갔소 / 감쏘 / 行ったの
- ㅅ[ㄷ] + 스 갔죠? / 감쪄 / 行ったでしょう

漢語に比べ、バッチムの数が多い固有語の様子はかなり複雑である。この複雑さの説明に最も時間を費やすことになるのは (15) の「代表音」である。(14d) ~ (14j) がその例である。

(15) 대표음(代表音)

초성에서는 서로 구별되는 일련의 자음들이, 받침으로 쓰일 때는 그 가운데 하나의 자음으로 발음될 때, 그 하나의 자음을 이르는 말. 받침에서 ‘ㄱ, ㄴ, ㄷ’ 이 ‘ㄱ’ 으로, ‘ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅌ’ 이 ‘ㄷ’ 으로, ‘ㅂ, ㅍ’ 이 ‘ㅂ’ 으로 발음되는데, 이 ‘ㄱ’, ‘ㄷ’, ‘ㅂ’ 따위이다.

初声では互いに区別される一連の子音が、終声（バッチム）として用いられる場合、その中の1つで発音されるとき、その1つの子音を指すことば。終声で「ㄱ, ㄴ, ㄷ」は「ㄱ」に、「ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅌ」は「ㄷ」に、「ㅂ, ㅍ」は「ㅂ」に発音されるが、この「ㄱ」「ㄷ」「ㅂ」などのことである。

（『標準国語大辞典』インターネット版）

（訳は筆者）

(13) と (14) の分布から分かるように、漢語の濃音化のタイプは固有語より多くない。しかし語数もそうであるかまでは把握できていない。濃音化が広く分布している固有語を初級レベルから導入することは厳しい。実際、初級レベルで導入する濃音化は用言の基本形が多い。漢語の場合は活用形がないため、多くは名詞である。

5.2 漢語と濃音化のコラボレーション提示

(13) で見たように、漢語は固有語に比べ、発音のバリエーションが多くないため、早い段階から体系的かつ集中的提示が可能である。しかも、

(16) のように、日本語にある漢語を用いるため、負担も大きくない。中には一部日本語にない韓国独自の漢語、例えば「학점(學點)」 「식구(食口)」や日本語では和語なのに韓国語では漢語の「입구(入口)」も含まれている。このようなリストは学習者のレベルを見計らいながら導入していくのが良いと思われる。

(16) 韓国語	発音	日本語
a. 국가(國家)	/국까/	国家
국가(國歌)	/국까/	国歌
국산(國産)	/국싼/	国産
국보(國寶)	/국뽀/	国宝
국제(國際)	/국제/	国際
b. 잡지(雜誌)	/잡찌/	雜誌
잡곡(雜穀)	/잡꼭/	雜穀
잡담(雜談)	/잡땨/	雜談
c. 학생(學生)	/학생/	学生
학교(學校)	/학교/	学校
학점(學點)	/학점/	単位
d. 식당(食堂)	/식땅/	食堂
식사(食事)	/식싸/	食事
식구(食口)	/식꾸/	家族
e. 입구(入口)	/입꾸/	入口
입장(入場)	/입짱/	入場
f. 십 분(十分)	/십뽀/	十分
십 점(十點)	/십점/	十点
g. 백 점(百點)	/백점/	百点

백발백중(百發百中)／백발백중／ 百發百中

筆者は、中級クラスで濃音化の導入の際に、理解を深めるために下記の言語景観に見る濃音化の例も提示している。



図 1 학교[학교]



図 2 국제[국제]



図 3 입구[입구]

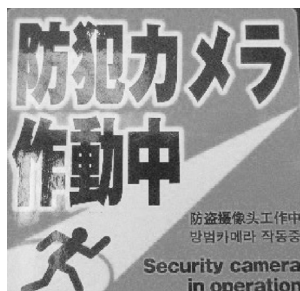


図 4 작동[작동]

6. 漢語と激音化によるコラボレーション

濃音化ほどではないが、激音化を起こす漢語も少なくない。以下では、激音化の様子を見てみよう。

6.1 激音化の様子

激音化とは、平音の [ㄱ] [ㄷ] [ㄹ] [ㅅ] がその前後に「ㅎ」が来ると、その「ㅎ」と融合し、それぞれの激音の [ㅋ] [ㅌ] [ㅍ] [ㅈ] に発音されることである。

(17) 漢語と激音化

- | | | | |
|----------|----------|-------|-------|
| a. ㄱ + ㅎ | 국화(國花) | /구과/ | 国花 |
| | 백화점(百貨店) | /배과점/ | デパート |
| | 복합(複合) | /보갑/ | 複合 |
| | 축하(祝賀) | /추카/ | 祝賀・祝い |
| b. ㄷ + ㅎ | - | | |
| c. ㄹ + ㅎ | 급행(急行) | /그행/ | 急行 |
| | 법학(法學) | /버팍/ | 法学 |
| | 입학(入學) | /이팍/ | 入学 |
| | 집합(集合) | /지팍/ | 集合 |
| d. ㅅ + ㅎ | - | | |

濃音化で取り上げたように、漢語のバッチムとして実現されるのは [ㄱ] [ㄷ] だけであるため、激音化のタイプは多くない。

(18) 固有語と激音化

- | | | | |
|----------|-------------------|-------|------------|
| a. ㄱ + ㅎ | 착하다 | /차카다/ | 善良だ |
| b. ㄷ + ㅎ | 닫히다 ⁷⁾ | /다치다/ | 閉まる |
| | 묻히다 | /무치다/ | 埋葬される・埋もれる |
| c. ㄹ + ㅎ | 잃다 | /일타/ | 失う |
| | 싫다 | /실타/ | 嫌だ |

d.	ㅅ + ㅎ	입히다	/이피다/	着せる・着させる
e.	ㅅ + ㅎ	못하다	/모타다/	できない
		깨끗하다	/깨끄타다/	きれいだ
f.	ㅅ + ㅎ	잊히지다	/이쳐지다/	忘れられる
g.	ㅅ + ㅎ	몇 해	/머태/	何年
h.	ㅎ + ㄱ	놓고	/노코/	置いて
		좋고	/조코/	良くて
		어떻게	/어떠케/	どうやって・どのように
i.	ㅎ + ㄷ	좋다	/조타/	良い
		그렇다	/그러타/	そうだ
j.	ㅎ + ㅅ	많지만	/만치만/	多いが
k.	ㅎ + ㅅ	-		

韓国語の「漢語+하다 hada」は日本語の「漢語+スル」に生産的かつ体系的に対応しており、使用頻度も非常に高い。この接尾辞の「-하다」に「ㅎ」が含まれているため、漢語語幹がバッチムで終わる場合、(19)のように激音化が起こる。

(19) 漢語動詞と激音化

a.	ㄱ + ㅎ	노력(努力)하다	/노려카다/	努力する
		도착(到着)하다	/도차카다/	到着する
		예약(豫約)하다	/예야카다/	予約する
b.	ㅅ + ㅎ	가입(加入)하다	/가이파다/	加入する
		간섭(干涉)하다	/간서파다/	干涉する
		영업(營業)하다	/영어파다/	営業する

尹 (2026) では付録に漢語動詞 900 語を提示してある。これは主に漢字の読み方と語彙力の向上を目的としたものであるため、発音情報は提供されていない。日韓両言語間で用法が一致するもの 850 語、一致しないもの 50 語のリストが提示されている。2027 年度からは索引と付録に発音情報を加えるつもりである。

6.2 漢語と激音化のコラボレーション提示

濃音化と同様に、同じ属性の語彙による語彙ネットワークを構築する必要がある。提示の際は、(20d) のような提示ではなく、(20a) ~ (20c) のように、共通性のある複数の漢語の提示が効果をもたらす。このようなグルーピングによる提示の仕方については尹亭仁 (2024) に取り上げられている。

(20) 韓国語	発音	日本語
a. 국호(國號)	/구호/	国号
국화(國花)	/구화/	国花
b. 법학(法學)	/버팍/	法学
입학(入學)	/이팍/	入学
잡학(雜學)	/자팍/	雑学
c. 백합(百合)	/배갑/	百合
백호(百號)	/배코/	百号
백호(白虎)	/배코/	白虎
d. 축하(祝賀)	/추카/	祝賀

漢語名詞と激音化のコラボレーション提示の対象は多くないと見られるが、語彙リストの作成によりその実情が明らかになると期待している。漢

語名詞と違って激音化を呈する漢語動詞は少なくない。(21a) ～ (21d) を見てみよう。尹亨仁(2027)には漢語動詞 7,000 語の発音情報が提示されている。筆者はこのデータから漢語動詞と激音化のコラボレーション提示のための語彙リストを作成している。

(21) 韓国語	発音	日本語
a. 고백(告白)하다	/고배카다/	告白する
기억(記憶)하다	/기어카다/	記憶する
도착(到着)하다	/도차카다/	到着する
예약(豫約)하다	/예아카다/	予約する
b. 추락(墜落)하다	/추라카다/	墜落する
탈락(脱落)하다	/탈라카다/	脱落する
c. 노력(努力)하다	/노려카다/	努力する
출력(出力)하다	/출러카다/	出力する
d. 유학(留學)하다	/유하카다/	留学する
입학(入學)하다	/이파카다/	入学する
진학(進學)하다	/진하카다/	進学する

濃音化の有標属性語彙と同様に、漢語と固有語に分ける必要があるが、この作業は簡単ではない。「못 하다」「몇 학년」「몇 호실」などは分かち書きされており、複合語ではない。激音化が起きているが、分類の基準の設定が難しい。

筆者は、中級クラスで激音化の導入の際も、下記の言語景観に見る濃音化の図を提示している。



図5 낙하[나카]



図6 부딪히지[부디치지]・않도록[안토록]

7. おわりに

本稿では、日本語を母語とする韓国語学習者の運用能力の向上に立ちはだかっている発音の問題の解決および目標学習語数である1万語の語彙リストの作成の基盤形成のための取り組みについて論じた。韓国語の発音の仕組みは複雑であるため、中級以上の授業での有標属性語彙による「複合的語彙ネットワーク」に基づいたコラボレーション提示をこの問題の解決策として提案した。複合的語彙ネットワークの構築のためには語彙調査が前提になる。課題としてこれから取り掛かりたい。

*謝辞：本研究は、JSPS 科研費 24K04062 の助成を受けたものである。

注

- 1) 趙義成（2007：371）は「韓国語の学習において、文字と発音の学習は文字通りすべての学習の「出発点」である。学習者がここを無事通過するか否かにより、その後の学習が大きく左右されると言っても過言ではないであろう。」と述べている。
- 2) 入門韓国語と応用韓国語は本学の国際日本学部国際文化交流学科の専科科目である。入門は初級レベル、応用は中級レベルである。
- 3) 韓国の標準語規定においては「激音化」も「ㄱ脱落」も「バッチムの発音」でまとめて説明され

ている。上級レベルの学習者には復習を兼ねて取り上げると効果があるように思われる。詳細については Heo Yong・Kim Seon Jung (2006) を参照されたい。

- 4) 韓国ではこのタイプを「자음동화(子音同化)」または자음접변(子音接變)」と呼ぶ。中島 (2021: 50-51) は「流音の鼻音化」と呼んでいる。「濃音化」も韓国では固有語の「원소리되기」または「경음화(硬音化)」と呼んでいる。このように、日本における韓国語教育では韓国と異なる用語を用いる場合が少なくない。『標準韓国語大辞典』(インターネット版)には「濃音化」が載っているが、李基文 (1989/2003) には載っていない。
- 5) 本学で初級の共通テキストとして使用している『教養韓国語初級』(2025) は、「濃音化」については非常に簡単に、「激音化」については触れていない。連音化、口蓋音化、鼻音化は取り上げられている。
- 6) 韓国語の子音字母は 19 個であるが、終声に現れるのは 16 個、発音として実現されるのは 7 個である。濃音化と激音化に関わるのは [ㄱ] と [ㅋ] の 2 つである。
- 7) 固有語の使役動詞や受身動詞の中で、語幹のバッチムの発音が [ㄷ] で終わる場合 (간하다[가티다<가치다]・걸하다[거티다<거치다]・달하다[다티다<다치다]・묻하다[무티다<무치다]・붙이다[부티다<부치다]・など)、激音化とともに「口蓋音化」も起こる。

参考文献

- 稲毛恵 (2026) 「日本の大学における韓国語語彙教育の現状と提言—1 万語提示を目指す体系的指導への試み」『神奈川大学言語研究』48 pp. 89-102 神奈川大学言語研究センター
- 金智賢 (2025) 『教養韓国語初級』朝日出版社
- 趙義成 (2007) 「文字と発音の指導法」野間秀樹編著『韓国語教育論講座』第 1 巻 pp. 371-386 くろしお出版
- 中島仁 (2021) 『これからわかる韓国語文法 入門から上級まで』NHK 出版
- 尹亨仁編 (2009) 『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』三省堂
- 尹亨仁 (2024) 「日韓両言語における 2 字漢語動詞の対応の諸相 (1) —「日韓漢語動詞 7000」の分析を中心に—」『神奈川大学人文研究』213 pp. 131-154, 神奈川大学人文学会
- 尹亨仁 (2025a) 「日本における韓国語の言語景観と活用の可能性 (3) —漢語動詞の語彙力の向上の観点から—」『神奈川大学言語研究』47 pp. 73-99
- 尹亨仁 (2025b) 「韓日両言語における 2 字漢語動詞の対応の諸相 (2) —「韓日漢語動詞 7000」の分析を中心に—」『神奈川大学人文研究』216 pp. 61-88, 神奈川大学人文学会
- 尹亨仁 (2026) 『韓国語重要文型練習 240 【日韓対照言語研究編 20】』pp. 1-70 私家版
- 尹亨仁編 (2027) 『日韓・韓日 2 字漢語動詞 7000 語の対照表—日韓両言語の漢語動詞の対応に見る正

の転移と負の転移に関する基礎的研究』刊行予定 三省堂

尹亭仁・稲毛恵 (2026a) 「韓国語の学習に関する簡易アンケートの結果について」 pp. 1-4, 神奈川大

学地域言語教育部会 2025 年度ワークショップ

尹亭仁・稲毛恵 (2026b) 『韓国語重要文型練習 240 【中級編 20】』 pp. 1-66 私家版

【韓国語】

李基文監修 (1989/2003) 『동아 새 국어사전: 東亜新国語辞典』 第 5 版 東亜出版社: ソウル

国立国語研究院 『標準韓国語大辞典』 (インターネット版) 国立国語研究院

Heo Yong・Kim Seon Jung (2006) 『외국어로서의 한국어 발음 교육론 (外国語としての韓国語発音教育論)』 박이정 (博而精): ソウル